

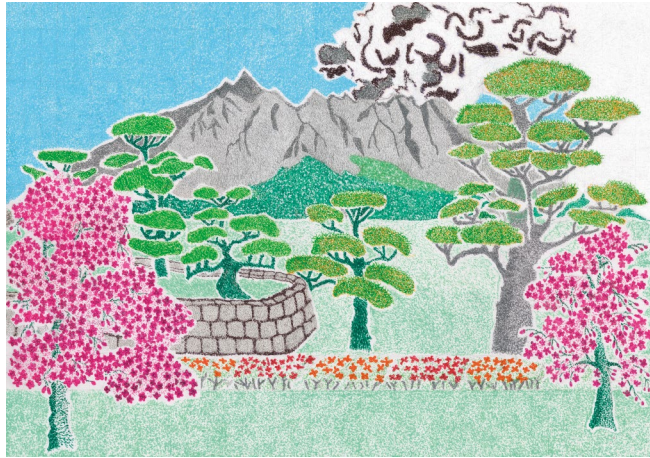
表紙のことは

渡邊 康次「仙巖園の春」



脳内出血を患ってから、右半身麻痺で右手が機能しなくなって35年が経ちました。この間に自暴自棄にもなりました。障害者雇用で2年ごと3件の会社に勤めましたが、外を眺めるばかりの6年間で、つらくて辞めました。10年前に自立のために「絵手紙」を始めましたが、3年前から、ボールペンで一点一点画用紙を紡いで描く点描画に目覚めて、黒のボールペンで動物画を描いてい

ましたところを、2年前BS 8チャンネルの番組で、私の点描画を放映していただきました。2年前に旅行で鹿児島仙巖園に行き、島津公の別邸で対岸の借景で桜島が噴煙を上げている大名庭園の写真を撮って参考にして点描画の「仙巖園の春」を描きました。1日5〜6時間くらい画用紙に向かってボールペンで紡ぎながら10日かかりました。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



本松 潤一郎「シウマイ」

最初は、紙粘土で、作品をつくることなんて、できるとは思っていなかったが、何か突然シウマイをつくってみたいとおもいたち、この作品ができました。ポイントとしては、シウマイの上ののっているグリーンピースがポイントです。色もなるべくシウマイに近づけるように工夫しました。作品をつくる過程で、王冠をつくることも考えたのですが、やはり、最初のシウマイをつくりたいという思いを大事にしてつくりました。